青梅市文化財ニュース

第２２８号

平成１８年１０月１５日

発行　青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684　℡0428-23-6859）

青梅市内にある遺跡の現状　　その２

文化財ニュース第２１８号では多摩川上流の市内最西端地域の遺跡から始め、下流に向けて主な遺跡の現状を１６か所ご案内してまいりました。このたびはその続きとして市内多摩川の中流域を対象にご案内いたします。

山の間を縫うようにして流れてきた多摩川は、神代橋付近から徐々に台地を広大化させ、大規模な河岸段丘をあちらこちらに形成しています。遺跡は主にそれらの段丘上に残っており、現在でも遺物を拾うことのできる遺跡もあります。今回は第二回目といたしまして、左岸では日向和田地内から青梅地内、右岸では梅郷一丁目、和田地内から畑中地内をご案内いたします。

日向和田地内では遺跡が３か所あります。この遺跡は崩橋（くずればし）遺跡と呼ばれ、青梅市内で一番古い縄文時代の住居跡が見つかったところで、とても重要な遺跡です。JR 宮ノ平駅から南へ１５０メートルほど行った、舌状台地上と、一部は段下に位置しています。昭和５５年１１月に発掘調査が行われ、縄文時代早期の住居跡のほか、縄文時代中期住居跡１か所、多量の礫器、撚糸文土器や条痕文土器なども見つかりました。また、段下では縄文時代後期の堀之内式土器を伴う敷石住居跡が見つかっています。この遺跡は現在、宅地化が進み，遺物の表面採集は出来なくなっています。

ここから東方は青梅地内となり、裏宿（うらじゅく）遺跡、大柳（おおやな）遺跡、他２か所、計４か所の遺跡があり、断片的にではありますが，発掘調査も行われています。裏宿遺跡は青梅駅から西へ約１．２キロメートル、山裾から南へ延びる幅約２００メートルの台地上にあり、東西約６００メートルの大規模な遺跡です。これまでに遺跡内の各所で調査が行われ、東京都水道局水源林事務所の建替え工事、市営住宅の建替え工事、多摩高校の体育館の建築用地、市立第一中学校校庭、森下公会堂などの工事現場から、旧石器時代から縄文時代、平安時代の遺物や遺構が確認されています。大柳遺跡は多摩川から直近の台地上に存在し、時代は縄文時代前期・諸磯式土器が多数見つかっております。また、金剛寺のある段丘の端では縄文時代前期の複雑な縄文の施された繊維入りの土器も見つかっています。以上の遺跡は、すでに住宅が建ち並び、遺跡としての存在は無くなっているのが現状です。そして、完全に無くなってしまった遺跡としては、永山（ながやま）グラウンド遺跡が上げられます。現在の永山グラウンドが出来る前は高台になだらかな畑が広がっていたのですが、グラウンド造成の為掘り返されてしまい、遺跡はまったく姿を消してしまいました。その時出土した平安時代の須恵器等が郷土博物館に収蔵されています。

多摩川の右岸、梅郷一丁目・和田地内では杉平（すぎだいら）遺跡、上原（うえはら）遺跡、雨竜岳（うりゅうだけ）遺跡、下大附（しもおおづき）遺跡の４か所があります。杉平遺跡は河岸段丘の上・下段に位置し、上段は１２，０００㎡に及ぶ広大な縄文時代中期の遺跡となっており、下段は堀之内式土器を伴う縄文時代後期の遺跡

となっています。特に、上段では、古くから発掘調査が行われており、平成６年４月の発掘調査では、住居跡７軒、柄鏡形敷石住居跡１軒、土坑８４か所、7000 点に及ぶ遺物が発見されました。現在でも、畑の片隅では縄文土器のかけら等を拾う事ができます。上原遺跡では、市道造成のために調査がされ、縄文時代早期から後期にかけての土器や石器が発見されました。現在でも土器等を拾う事が出来ます。この遺跡のすぐ東側は雨竜岳遺跡です。ここは、上原遺跡と同じ段丘に属し、昭和５６年８月に発掘調査が行われ、縄文時代早期の土器や平安時代の土師器片、住居跡１か所、土坑５か所などが確認されました。荒地のため、現在、表面採集等は出来ませんが、耕作が行われていた時に収集した礫器の完形品が博物館に収蔵されています。下大附遺跡の面積は広大ですが、遺物の散布地は東端に偏っています。昭和５６年８月に発掘調査が行われ、落ち込み１か所の確認と、縄文時代中期・加曾利 E 式土器や勝坂式土器、平安時代の土師器片が出土しました。表面採集では、分銅形の石斧が多数収集されています。畑中地内は笹原（ささはら）遺跡、竹原（たけはら）遺跡、橋上（はしうえ）遺跡、荒田（あらた）遺跡、下内（したうち）遺跡の５か所です。笹原遺跡は多摩川直近上にあり山裾からなだらかに延びた段丘上には竹原遺跡が位置しています。ともに宅地化が進み表面採集はほとんど不可能ですが、博物館には、竹原遺跡で発掘された蛇の把手をもつ土器や深鉢、多くの石斧類が収蔵されています。橋上遺跡は畑中神社のある台地です。ちょうど舟をかぶせたような地形となっており、境内と本殿北側一帯が遺跡となっています。主に、縄文時代中期後半から後期にかけての遺跡で、土器、石棒、打製石斧、磨製石斧、矢じりなどが表面採集され、神社の御神体となっている石棒はこの地から出土した可能性があります。現在でも土器などを拾うことができます。橋上遺跡の北側が広大な荒田遺跡です。ここでは、大型石斧やへら削りを施された土師器の破片などが拾われています。下内遺跡は畑中一丁目交差点の上下段丘に位置しています。マンションの建築に係る発掘調査（昭和６３年）では平安時代の住居跡を確認しました。また、平成１３年から１４年において、吉野街道拡幅工事などに係る発掘調査が行われ、縄文時代中期の住居跡１４か所や多数の縄文土器、石器など、そして西側では平安時代の住居跡が発見されています。

今回のご案内では、市内で一番古い住居跡の出た崩橋遺跡、巧みの技を表すかのような作りの加曾利 EⅣ式土器の出た裏宿遺跡、蛇の頭を縁に現した土器の出た竹原遺跡など、目を見張る遺物や遺構が出土した遺跡をご紹介いたしました。[続く]　　（文責　鈴木晴也）

掲載した遺跡位置図（２）

平成９年発行国土地理院発行 1/50,000 地形図「五日市」「青梅」